



2020年12月発行

# LETTERS

公益財団法人  
佐倉国際交流基金

〒285-0025  
佐倉市鑓木町198番地2  
TEL・FAX 043-484-6326

## 佐倉市国際文化大学開講までの道のり

2020年に入り新型コロナウイルス感染拡大防止のため「新しい生活様式」を取り入れることで、今までできていた活動は制限や変更を余儀なくされました。佐倉国際交流基金の国際相互理解推進事業の一つである、佐倉市国際文化大学事務局はどのようにして9月開講決定し、講座運営することができたのか聞きました。

### 異例づくめの講座運営

学生部 部長 鈴木昭寛

今年も多くの受講希望者のご要望や学習意欲に応えて、佐倉市国際文化大学が企画する国際相互理解や社会学習の灯を消すことなく、コロナ禍で多くの社会活動が厳しく規制されるなか、如何に感染リスクを回避して講座開設ができるのかを繰り返し検討しました。

まず公民館や文化施設を利用した「運営ガイドライン」を作成して、コロナ感染予防と具体的な対処方法や遵守すべき行動基準を作成し、これを参加者全員が講座開設から修了まで確りと遵守することとしました。

コロナ感染状況をフォローしながら当初5月中頃の開講を、6月中頃へ、更に9月中頃へと開講時期を順延して、何とか開講にこぎ着けられた訳です。そのため講師の先生方と日程調整で二度三度と登壇交渉を繰り返しましたが、先生方もご負担を抱えながらご理解を頂き、9月中頃から12月中頃までに13回の講座を開講することができました。講座は政治経済課題4件、外交安全保障3件、文化歴史2件、芸術文学2件、科学分野2件と満遍なく広領域にアレンジすることができました。講師の方々にはマスク着用でリアルな大会場でご講演頂き多くのご負担をおかけしました。



実際の講座運営では、教場入場前に受講者や事務局員の健康管理や検温、手洗い、マスクやフェイスシールドの着用等のセルフ・コントロールはもちろんのこと、開場前の換気と前半と後半の講演時間の中間に休憩時間を兼ねて換気を行い、受講者への配布資料等の手渡しを禁止し着席は指定席制を取りました。質問に対してはマイクの使い回しを行わない等の感染リスク回避対策を徹底しました。

今回は教場の提供に市担当部署や各施設管理者の多大なご協力を頂き感謝に堪えません。また従来にはない午前と午後一日二回の連続講演や日曜日の開講等で、運営事務局も新たな経験を積み上げ、チームワーク向上にも繋がりました。

## 教場確保に奔走

総務部 部長 青柳雄二

佐倉市国際文化大学は、(公財)佐倉国際交流基金の主催事業として、佐倉市の協力を頂き、中央公民館を主たる学習施設として、特定期日の利用を一括許可された団体です。



創設以来これ迄30年に亘り市広報課の支援協力を頂いて運営を推進して参りました。

今年度は「新型コロナウイルス感染状況」対策を受けて教場確保に係る種々の問題に直面し、検討調整を図って参りましたが、その状況について以下の通りご報告致します。

本年4月に政府の緊急事態宣言が発令され、所謂「3密」回避等の対策に伴い公共施設の閉鎖等の措置が採られました。その間、文大活動も謂わば休止状態に陥り、再開に向けての検討作業(経緯は学生部長報告参照)に充てられました。

その後、緊急事態宣言が解除され、公共施設の閉鎖が条件付きで解かれましたが、その際、教場の各室に「新型コロナ対応後の定員」が定められ、中央公民館大ホールで100名、例年常設教場として利用出来た「学習室3」教室は41名と設定されました。このことにより「学習室3」教室を予定していた教場を、他の公民館等と調整の結果、100人収容の施設を一旦確保できましたが、これら施設は交通の利便性に問題があることが判明、更に中央公民館ホールの予約に他利用団体との重複予約が見つかった事などから、新たな調整作業が発生しました。

その後、教場の確保については、市広報課のご支援を頂き、通常は音楽関係行事の使用を原則とする「市民音楽ホール」(臼井)を利用することで問題解決となりました。このことから教場は中央公民館1個所の予定でしたが、市民音楽ホールとの2個所で実施ということに変更になりました。



かくして9月12日の開講式を皮切りに、2020年度の文大は開講いたしました。教場が中央公民館大ホールの日は、毎回、当日会場設営準備に事務局総出でソーシャルディスタンスを採った椅子席(指定席)の設置、マスク着用、検温、アルコール消毒の徹底等、受入れ体制を整えて受講生の来場に備えております。

以上

## ネパールの今と支援活動を続ける一人の日本人



垣見一雅さん

「OKバジ」こと垣見一雅(かきみ かずまさ)さんは、ネパールで貧しい村人の自立化につながるプロジェクトを27年間支援しています。1990年アンナプルナベースキャンプ近くで雪崩に遭遇し、その時彼のザックを担いでくれたポーターの死と1994年バス事故で肋骨を6本骨折した際、ネパールの人々の好意と親切に心打たれ、自分も死を恐れずネパールの人々のために何か

しようと思ったことが、ネパールで居住し支援活動をするきっかけになったそうです。当基金の賛助会員（団体）でOKバジさんの活動を16年間支援している「OKさくら」の皆さんに、OKバジさんの活動を知ったきっかけ、ネパールの現状を聞きました。

### OKバジとの感動的な出会い

OKバジこと垣見一雅（かきみ かずまさ）さんは年間200日以上、貧しい村々を歩き人々の声に耳を傾けながら必要とするところに支援活動を行っています。そんなバジさんの案内で2003年11月ネパールスタディツアーに参加し活動を目の当たりにして、最も支援を必要としている人々のもとへ確実に支援が届いていることに感動しました。日本へ帰る機内で



「私たちに何か出来ることはないかしら・・・？」との思いから翌年2月に女性4人で「OKさくら」を発足させました。今日まで16年間活動を続けてくることができたのは、何よりもOKバジの存在の大きさと皆様からのご支援によるものです。「自分が与えるよりも、自分に与えられることのほうが大きい」、このバジの言葉が私たちの胸に大きく響き、励みになっております。これからも年に一度のバジ帰国講演会をはじめ、草の根活動（バザー他）を続けていきたいと思っております。

### ネパールの現状



新型コロナウイルスが世界中に拡散し10ヶ月近くになりますが、未だ収束する気配はなく、世界経済は後退の一途にあります。ネパールでは新型コロナウイルス総感染者約22万人、新規感染者1,669人、死亡者1,321人（2020年11月23日現在）となっており減少傾向にありますが、ネパールではもともと日々の生活維持がやっとの世帯が多くこのコロナ禍は深刻です。「OKバジ」が支援活動しているパルパ県でも、日々の食糧に困窮している世帯が増えています。2020年9月ごろ「OKバジ」から届いた手紙によると、今後の支援拡大（食糧支援）が必要であることが報告されました。学校閉鎖は継続中であり、学校での食事が唯一の「適切な食事」であった子どもたちのことを考えると、私たちも最優先課題であると考えております。少しでも多くの食糧が届くように、今後も「OKバジ」を通じてネパールへの支援活動を続けていきたいと思えます。

#### （垣見一雅さん紹介）

1993年、54歳の時にネパールに単身移住し支援活動を始めた。

活動開始当初、ネパール語も解からず、村人からの頼みごとにはいつも英語で「OK、何とかしてみるよ」と答えていた垣見さんは、ネパール語で“おじいさん”の意味を持つ「バジ（B a j i）」と併せ「OKバジ」と呼ばれるようになった。1997年には当時のネパール国王より日本人で初めてゴルカダッチンバウ勲四等を授与された。

2009年「第43回吉川英治文化賞」受賞、2015年「ヘルシー・ソサエティ賞」受賞

#### ○外国人のための生活相談

市内に在住する外国人の方の生活に関する相談を受けております。お気軽に下記まで、お電話、メール、或いはお立寄り下さい。状況によっては、行政などとの連携のもと、相談員が支援活動を実施しています。予約が必要となります。

対応可能言語： スペイン語・英語・中国語

時間： 10:00～16:00 場所：事務局 他

（電話・FAX 043-484-6326 メール info@sief.jp）





## ご 案 内

### ◇国立歴史民俗博物館

#### 【企画展示/特集展示】

- ・企画展示「性差（ジェンダー）の日本史」  
2020年10月6日（火）～12月6日（日）※土日祝日と12月1日以降はオンライン事前予約が必要です
- ・第3展示室 特集展示「海を渡った漆器Ⅲ－輸出漆器の技法」  
2020年12月15日（火）～2021年2月7日（日）
- ・第4展示室 特集展示「アイヌ文化へのまなざし－N.G.マンローの写真コレクションを中心に－」  
2020年12月22日（火）～2021年5月9日（日）
- ・特集展示（国際展示）「東アジアを駆け抜けた身体（からだ）－スポーツの近代－」  
2020年1月26日（火）～2021年3月14日（日）
- ・特集展示「海の帝国琉球－八重山・宮古・奄美からみた中世－」  
2021年3月16日（火）～5月9日（日）
- ・第3展示室 特集展示「桜の意匠」  
2021年3月16日（火）～4月11日（日）



稲妻（サザンカ群）

#### 【くらしの植物苑】

- ・くらしの植物苑特別企画「冬の華・サザンカ」  
2020年12月1日（火）～2021年1月31日（日）

\*最新情報は、HP 等でご確認下さい。

れきはくホームページ <https://www.rekihaku.ac.jp>

ハローダイヤル 050-5541-8600

### ◇DIC川村記念美術館

#### <コレクション展示>



期 間：2020年12月1日（火）～2021年1月11日（月祝）  
開館時間：午前10時30分～午後4時（入館は午後3時30分まで）  
休館日： 月曜日（祝日の場合は、翌日が休館日となります。）  
年末年始休館 12月25日（金）～1月4日（月）

改修臨時休館

期 間：2021年1月12日（火）～7月2日（金）

\*最新情報は、DIC川村記念美術館HPでご確認ください。

ホームページ <https://kawamura-museum.dic.co.jp>

### ○賛助会員募集

国際交流活動に興味があり、当基金の事業に賛同していただける方のご入会をお待ちしております。

会員特典・佐倉市の国際交流活動についての情報「SIEF Letters」の郵送

- ・佐倉国際交流基金（SIEF）主催のイベントの開催詳細情報をメールでご連絡
- ・賛助会員には、次のような割引制度があります。（個人会員のみ）

1. DIC川村記念美術館入館料の割引（団体料金）
2. 市民音楽ホール主催のコンサートチケット割引（10%）
3. 国立歴史民俗博物館入場料の割引（団体料金）

会費（年額）団体・法人会員・・・1口 10,000円 外国人会員・・・1口 1,000円  
個人会員・・・1口 2,000円 学生会員（22歳未満）・・・1口 1,000円

公益財団法人 佐倉国際交流基金 事務局（SIEF） 関口・村瀬・松田

〒285-0025 佐倉市鎗木町198番地2 レインボープラザ佐倉 2F

電話・Fax 043-484-6326（月～金 9:00～17:00）

HP: <http://www.sief.jp> Email: [info@sief.jp](mailto:info@sief.jp)